

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700104		
法人名	医療法人 慈風会		
事業所名	グループホームみやざき		
所在地	福井県坂井市三国町北本町2-2-6		
自己評価作成日	平成30年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病内にあるグループホームの為24時間医療連携にあり、医療と介護が共に提供できることでご本人やご家族が安心して生活ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はえちぜん鉄道三国駅の近くに位置しており、近隣にはスーパーマーケットや図書館、神社などがあり利便性の高い場所にある。事業所は母体である病院の2階部分にあり、系列のデイケアや認知症対応型デイサービス事業所も併設している。事業所内だけでなく、病院の待合室にも利用者が製作した作品を飾っている。食事は、温かい物を提供できるように食器が工夫されており、利用者は楽しみにしている。職員は、事業所の理念である「愛情をもって接し、毎日たくさんの笑顔が見られるような介護支援を提供します」を心掛けており、日中も利用者が居室に閉じこもることなく、リビングで職員と会話したり、作品を作ったりと、楽しみながら過ごしている。利用者の表情からも、居心地よく過ごしている事を感じることが出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し職員が共有認識のもと入居者様の支援に努めています	法人理念とは別に事業所独自の理念を設け、玄関と廊下に掲示している。理念の実践について、日々振り返ると共に、月1回のスタッフ会議でも振り返り職員間で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の情報なども頂き参加交流を行っています。	自治会に加入し、三国祭りなど地域の行事に参加している。同母体のデイサービスセンターに子供達に来る時は、利用者も行事に参加するなど、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流に参加することにより認知への理解を頂けるよう心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度推進会議をひらき現状報告と共にご意見をいただいています。	2か月に1回開催し、民生委員、家族代表、広域連合職員、地域包括支援センター職員、法人代表者が参加している。会議では、事業所の運営状況や家族の要望に対する取組みを報告するなど意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば問い合わせを行い、会議開催等相談しています。	広域連合職員や地域包括支援センター職員とは、必要に応じて相談し、助言・指導を受けており、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアとして見守り対応おこなっている。夜間のみ入り口の施錠行っています。	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束はもとより、言葉の暴力にも日々職員間で注意しあっている。母体法人で身体拘束防止の研修を行っており、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の知識のもと職員皆で注意行い介護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者は居ませんが勉強会に出席し権利擁護について理解するよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学をして頂き雰囲気をもてもらった後、契約という形をとっている。不安、疑問に対しても説明行って理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院全体で意見箱を設置している。ご意見ご要望あった場合全職員が窓口となり対応し管理者に報告対応行っている。	家族の面会時に話す機会を設け、意見や要望を聞いたり、連絡を伝えたりしている。また、日々の関わりの中から利用者の意向を把握し、出された意見・要望はスタッフ会議で検討し、運営に反映している。	広報誌に家族への連絡等を添えて送付し、意見や要望をいただいたり、家族へのアンケートを実施し、結果を整理し見直す機会を設け、それらを運営に反映することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を行い職員より意見提案を聞き運営に反映するよう努めています。	月1回スタッフ会議を行い、職員の意見や要望を聞くようにしている。また、普段から意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。職員の意見や要望は、管理者から理事長に伝え、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	興味のある研修に参加してもらい他職員にも伝えることで全体的にスキルアップとサービス向上につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設している病院内の勉強会に参加してもらうことでより広い知識をもってもらえるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修に出席したときは情報交流が持てるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人に会う機会を持ち、現状を見て少しでも把握し心地よい生活の場とされるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時にご家族の想いを聞き信頼関係が築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現在の状況を聞きながらご本人、ご家族の必要としていることは何なのか検討を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることは活動してもらいながら支えあえるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の生活状況を伝えることにより日頃の様子を知って頂き一緒にご本人を支えていける関係を心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くにあるスーパーや美容院など馴染みの場所で顔見知りの方との縁が途切れないよう支援しています。	利用者の関係をセンター方式で把握し、職員間で共有している。家族が月1回は訪れる工夫をし、関係継続の支援に力を入れている。また、家族で墓参りに行ったり、年賀状や手紙のやり取りなど、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見極め利用者様同士が共有して、できることを見つけ支援につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し併設の病院や外来受診などでお会いすることもありその後の家族との関係も引き続き大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のご本人の会話、表情をよみとったりご家族からの情報をもとに本人本位への支援に心がけています。	利用者との日々の会話から思いや要望の把握に努め、聞き取った内容を記録に残し、職員間で情報共有している。意思疎通の困難な利用者には、表情や反応から思いを汲みとったり、家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にカンファレンスを行うことでご本人に関する情報収集を行っている。入居してからもご本人ご家族との関係も大切にしながら情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態の観察を行いながらご本人の出来ることを支え職員皆と情報共有できるよう記録、引き継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族関係者を交えカンファレンスで意見出し合い介護計画につなげている。	担当職員がケアマネジャーに日々の状況、課題を報告し、また本人や家族から聞き取りを行い、プランに反映している。毎月モニタリングを行い、状態が変化した場合は、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には日常の出来事、ご本人の様子を記入し、情報共有を行い介護計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望に応じた対応に心がけその時々生まれるニーズにもできるかぎり要望に沿えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院内にあることで医療面での精神的な安心も得られ、皆さんで手作りした掲示物を飾ることもしながら日々の暮らしも楽しんでいく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しており24時間医療連携をとっておりそのつど適切な医療が受けられるよう支援おこなっています。	利用者は、希望するかかりつけ医を受診する事が出来る。母体法人である医療機関とは、24時間医療連携を図り、月2回の往診を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時看護師に日々の状態伝えており異常があれば外来看護婦に相談行い受診行いうよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態把握兼ねてお見舞いおこない医療機関と連携して相談行い関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期について入居時にも説明し状態が変化あるごとにご本人、ご家族と話し合いをもっています。	契約時や利用者の状況に応じ、家族の意向を確認している。重度化した場合は、母体法人の病院や、特別養護老人ホームに移行するなど、必要な支援が受けられるように連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に対する流れのマニュアルに沿って対応行いうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の病院と共に消防の指導の下避難訓練を行っています。	年に2回、火災を想定した避難訓練を行っているほか、法人全体でも避難訓練を行い、消防署の指導を受けている。災害時の法人内連携の体制整備を行い、法人として非常食も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の自尊心を傷つけないよう心掛け、声掛け行い、入浴や排せつの際プライバシーにも配慮しています。	職員は日々の関わりの中で、利用者のプライバシーに配慮した言葉遣いを心掛けている。排泄、入浴等のケアの場面ごとに利用者のペースに合わせて支援している。母体法人の接遇の研修に参加し、日々の対応に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決定できることが難しい場合には表情動作などよりご本人の希望や関心を考えながら自己決定の場を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望を尊重しご本人のペースを大切にした支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近所の美容室へ出かけている。洋服を選ぶ時も相談しておこない服装がみだれている時はさりげなく直す対応おこなっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は病人食を提供していることもあり好みのメニューとはいかない為、月1回の食事会を計画している。利用者とは台拭き、コップ拭きなど出来ることを共に行っています。	母体法人の厨房で調理された作りたての食事を提供している。定期的に事業所独自で季節を感じられる食事会を行ったり、外食などもしている。利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士さんとも連携をとり栄養バランスのある食事、禁食対応、食事形態、を考慮してもらっている。水分量に関しても摂取量チェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをみてトイレの声掛け、誘導を行い出来ることはご本人で行ってもらえるよう支援しています。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。日中も一人ひとりの力や習慣を活かして自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防策として水分補給、トイレの声掛け等おこない排便を促している。不便続く方には便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別で職員と一対一での対応を行っている。その日のタイミングをみて午前、午後で行い湯加減の好みを聞いたり個別の対応に努めています。	週2回を基本として、個浴で対応している。一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり入浴出来るように心掛けている。ゆずなど入れ季節を感じ、楽しんで入浴出来るよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで自由に過ごして頂き夜間も個別で温度調整し安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルにとじてあり職員が確認できるようにしています。症状の変化みられた際は看護師に相談行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味など楽しんで貰い個々の持つ力を活かしてもらうように支援し希望に沿った気分転換のも対応できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望された時は出来るだけ思いに添えるよう支援しています。	利用者の希望に沿って近くのスーパーに買い物に出掛けたり、季節に応じた外出を心掛けている。また、図書館や近くの駅まで散歩に出掛けている。歩行困難な利用者にも車イスを利用して外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については必要なものを購入いただいている。その他の方でも必要時にはご家族と相談しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方については自由にやりとりでき、お持ちではない方でも希望される方はそのつど対応行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物、食事、レクを行うところは暖色照明を使用しています。季節感を感じてもらえるような装飾をしています。	共用空間は、季節が感じられる手作りの作品が展示され、明るくワクワクする空間となっている。ソファがあり、ゆったりと居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席も出来るだけ気の合う方同士の工夫を行っている。ソファのある場所ではDVD鑑賞、カラオケを楽しんでいただけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、写真、制作物を居室に飾ることで安心感を感じてもらえるよう工夫しています。	居室の入り口には、利用者の写真が飾られ、居室の中も馴染みの物や作品が置かれている。大きな窓があり、明るく清潔に保たれており、居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る力を活かしてもらえよう職員も支援行っています		